

発掘された真田の城

沼田城跡

沼田市指定史跡沼田城跡
調査・保存整備事業の成果 2



令和3年(2021)

沼田城跡調査・保存整備事業について 1

調査・保存整備事業について

令和2年度の調査成果 2

測量調査 / 地中レーダー探査 /
発掘調査 / 整理作業

グラウンドに現れたクロップマーク -コラム- 13

城跡に四季折々の花

In 1682, Numata Castle was demolished. In 1916 Taminosuke Kume purchased the land, and designated that there be a park to preserve the historical monuments. Now this park, called Numata Park, provides us with pleasure in every season. Azaleas bloom in May.



沼田城跡調査・保存整備事業について

In 2018 we started a new research project about the history and structure of Numata Castle. This project is supported by Agency for Cultural Affairs Government of Japan, Gunma Prefecture, and a committee of archaeologists and historians. In 2019 we reported on past excavations and conducted several surveys as follows: topographic surveys, GPR(Ground Penetrating Radar), and an excavation of the main enclosure of Numata Castle. As a result, we found vestiges of pillars and many roof tiles, which show that Numata Castle certainly exists under Numata Park.

調査・保存整備事業について

沼田市教育委員会では、沼田市指定史跡沼田城跡の調査・保存整備事業を進めています。この事業は平成4年（1992）に計画された「沼田公園長期整備構想」に伴い、沼田城の構造や歴史について調査を実施するとともに、史跡の上位指定を目指す事業です。市内部に調査・保存整備委員会を設置し、城郭研究者等の専門家による専門部会と群馬県文化財保護課の指導のもと調査を実施しています。事業にあたっては国（文化庁）と群馬県からの補助金交付を受け6年間（平成30年度～令和5年度）の計画で行っています。

発掘調査をはじめ測量調査、出土遺物や絵図面、文献資料の調査など関連調査を実施し、最終年度にはそれらの調査をまとめた総括報告書を作成する予定です。

令和元年度は、（1）平成27・28年度に実施した発掘調査の報告書『沼田城跡2』の刊行、（2）測量調査、（3）地中レーダー探査、（4）発掘調査を実施しました（『発掘された真田の城 沼田城跡 沼田市指定史跡沼田城跡調査・保存整備事業の成果1』

令和3年3月発行参照）。発掘調査は本丸跡内で行い、地表面下約60cmに真田氏改易時と考えられる遺構面と柱穴が確認され、真田氏が整備した沼田城で使われていたと考えられる瓦が出土しました。現在の沼田公園の地下に沼田城の遺構が想像していたよりも良い状態で遺存していることがわかった点が特筆されます。

令和2年度は、（1）測量調査、（2）地中レーダー探査、（3）発掘調査、（4）出土遺物整理作業を実施しました。



専門委員の指導を受けながら実施する測量調査の様子
A committee of archaeologists and historians advises us

令和2年度の調査成果

In 2020 we conducted several surveys as follows: topographic surveys, GPR(Ground Penetrating Radar), and an excavation of the moat of Numata Castle. As a result, we found traces of a moat and many roof tiles that were dumped when Numata Caste was destroyed in 1682. In addition, we found traces of a previously unknown moat which shows an old part of Numata Castle that we didn't know.

測量調査

保科曲輪北側の段丘崖に確認できる腰曲輪群において現地測量調査を実施しました。この場所は、上野国沼田城絵図（正保城絵図）等に小さな曲輪が描かれ、侍屋敷地として利用されていたことが推測されています。別の絵図面には、保科曲輪からこの曲輪を抜けて薄根川へ通じる道が描かれたものもあることから、薄根川方面との連絡通路として機能する道と、それを警備するための曲輪と考えられます。昭和23年

に撮影された航空写真には、複数の曲輪と考えられる平坦面が写っており、現地測量による図化を実施しました。

測量の結果、この腰曲輪群には大小8つの平坦面があり、上：腰曲輪群1（腰曲輪1～腰曲輪6）、下：腰曲輪群2（腰曲輪7、8）の2つのグループに分かれて存在することがわかりました。

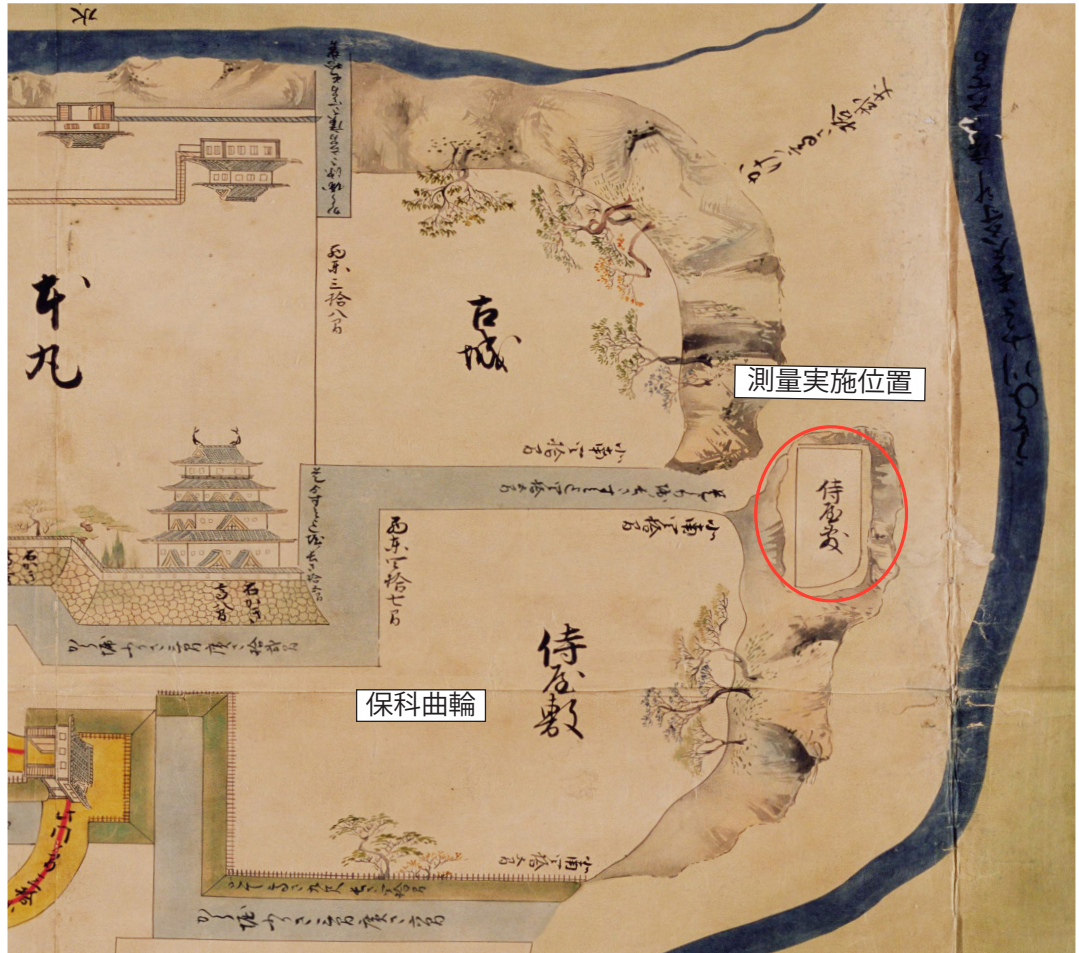
腰曲輪群1は最大の規模を持つ腰曲輪6を中心に、小規模な腰曲輪で構成されます。

腰曲輪6と保科曲輪が存在する台地上面との比高差は20mありますが、腰曲輪4から伸びる道跡が東へ伸び回り込んで保科曲輪へ接続すると考えられることから、台地上の保科曲輪からの連携により運用される性格が考えられます。

腰曲輪群2は、広い表面積でかつ2段でもって北側に向かい、薄根川の低地から登ってくる道に対してのことから、北側への警戒を強く意識していると考えられます。また、腰曲輪7西端は突出して道を挟み込



測量実施位置 1:5000 上が北 / Topographic survey point



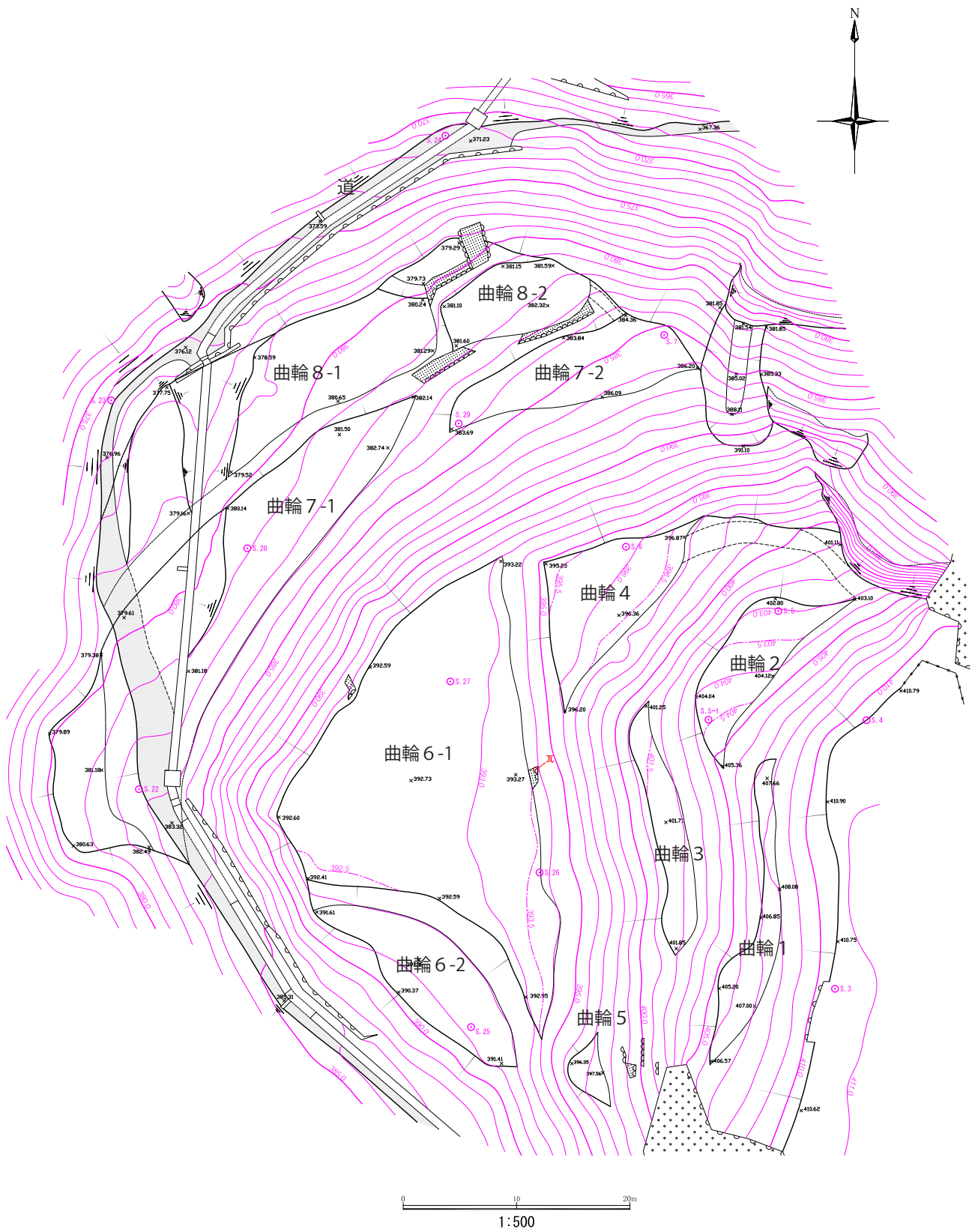
測量実施位置 正保城絵図 上野国沼田城絵図（部分、右が北） 国立公文書館蔵
 Topographic survey point on Shoho Shirouzu, illustrated map includes military information



昭和 23 年撮影米軍航空写真に写った北側段丘崖の腰曲輪群
 Topographic survey point, photo taken in 1948

む形をとる点からも、道
 に対する強い意識を感じ
 取ることができます。

今回の測量調査によっ
 て、沼田城が台地上だけ
 でなく、段丘崖を巧みに
 利用して腰曲輪を構築し
 機能させていたことが伺
 えます。それと同時に、
 この腰曲輪群がいつ頃造
 られたものなのかなど新
 たな課題が浮かび上が
 りました。



令和2年度実施 沼田城保科曲輪北側段丘崖・腰曲輪群測量図
 Topography of present-day Numata Castle/1:500

地中レーダー探査

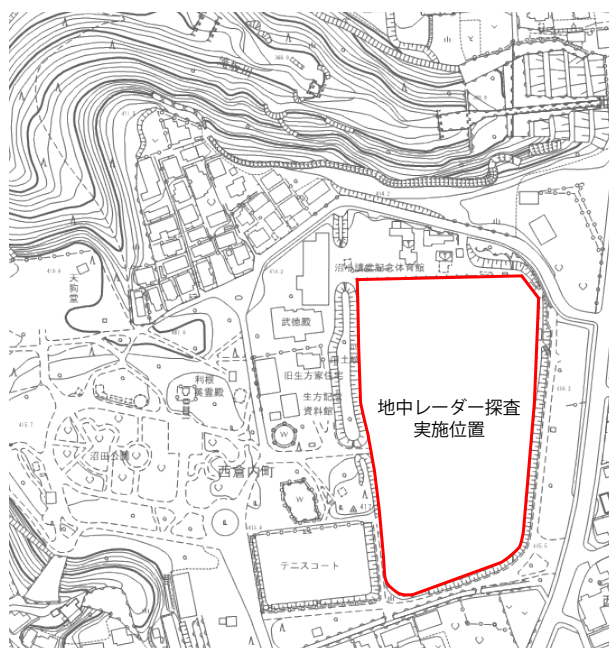
地中レーダー探査とは、電磁波を用いて地面を掘削することなく地下の状況を調べる調査です。地中の電氣的差異を捉え図化するもので、地下の遺構の形状そのものを捉えるわけではありませんが、土の違いやそこに含まれる異物（例えば礫）などにより発生する電氣的差異により、ある程度遺構の形状を反映したデータが得られるとされています。地中レーダー探査は、水分を多く含む場所では電磁波が減衰するため低湿地では効果が薄いことが知られていますが、沼田礫層が厚く堆積し、周囲を河岸段丘によって区画された水はけの良い沼田台地においては、有効な調査手段といえます。

令和2年度は、沼田公園のグラウンド部分 16,600㎡で、測線総延長 5,020m の探査を実施しました。探査には、優れた深部探査機能を有する最新式の 200MHz デジタルアンテナを使用しました。

探査の結果、グラウンドの地表面下に上幅 12～22m、地表面からの深さ約 4.5～5.0m の溝状の構造が複数箇所確認できました。沼田城を描いたいくつかの絵図面では、本丸の東側に保科曲輪、その東側に二の丸、二の丸は南側に出入口を構え、その外側は三の丸という構造が想定されています。今回地中レーダー探査で捉えた溝状構造の分布状況は、沼田城を描いた絵図面に描かれる保科曲輪から二の丸、二の丸出入口あたりの堀の配置状況に近似しており、これらの堀跡を検出したものと考えられます。ただし、二の丸出入口の外側部分が二重になっており、掘り直したか時期の違う別の堀跡が存在する可能性があります。また、二の丸と保科曲輪の間の堀跡が途切れ

ており、どのような構造なのか新たな課題となりました。

今回の地中レーダー探査で、グラウンド部分の堀跡の状況をかなり詳しく捉えることができ、沼田城跡の曲輪構造の把握が大きく進みました。



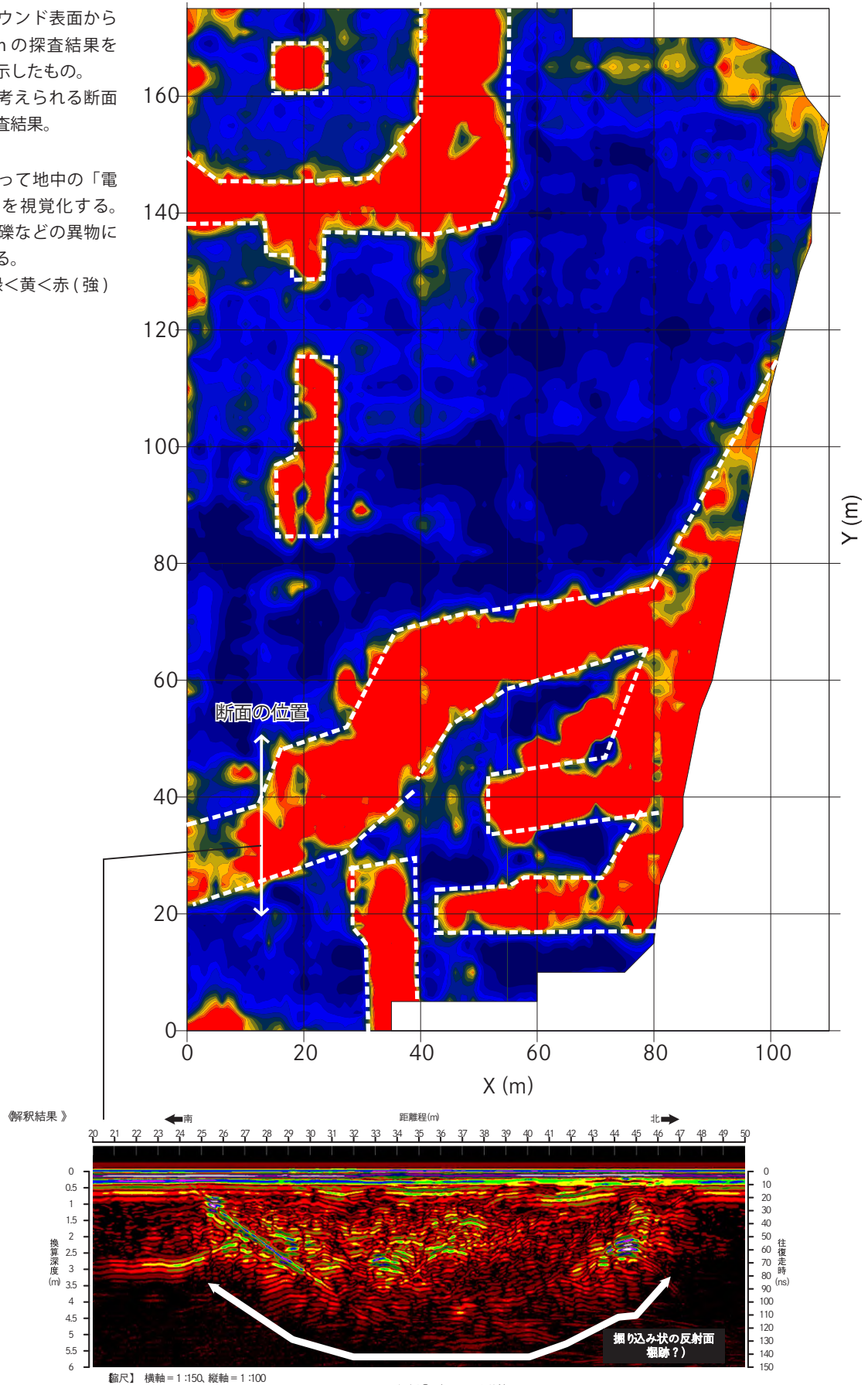
地中レーダー探査実施位置
Area of Ground Penetrating Radar 2020



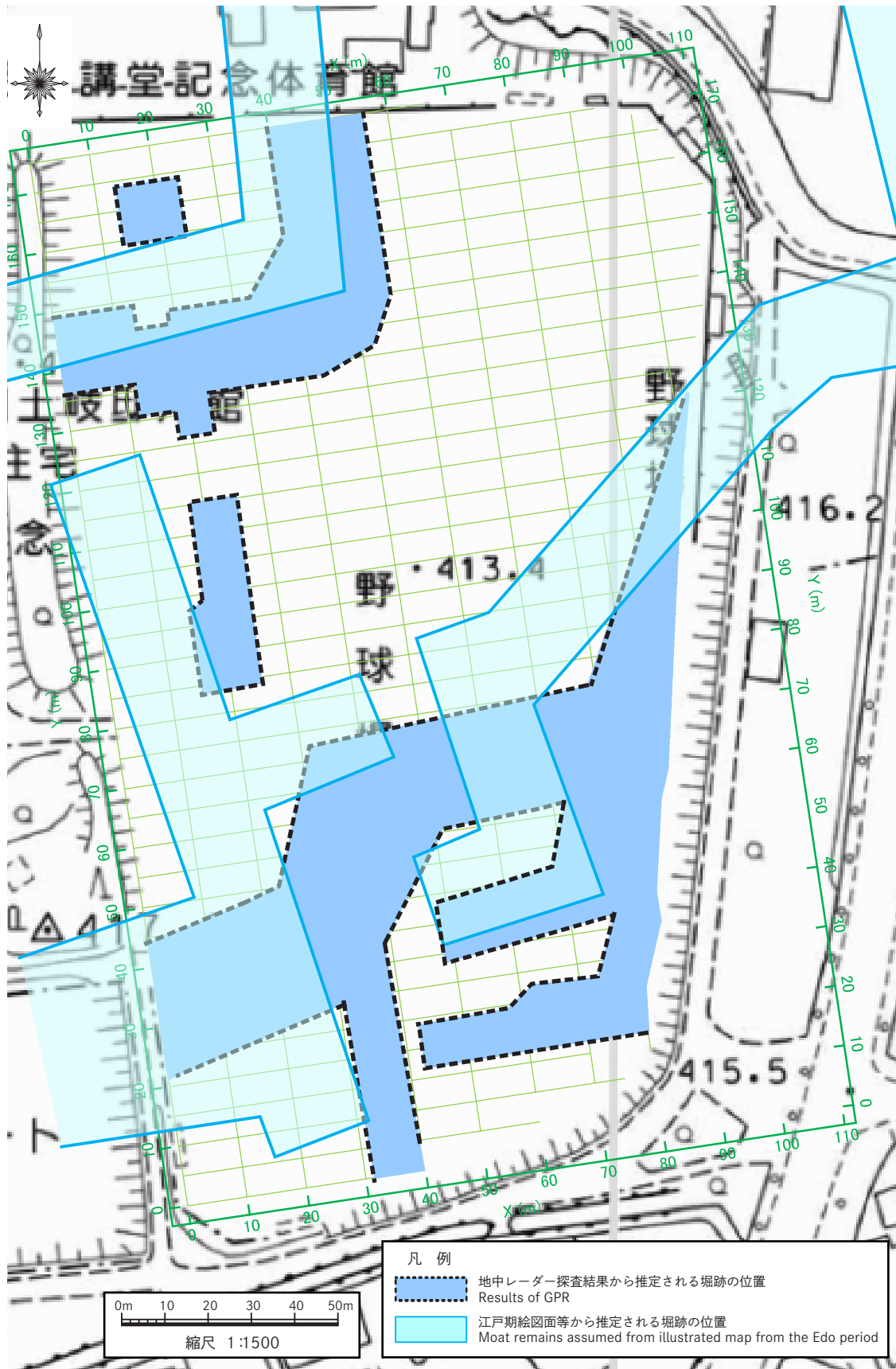
地中レーダー探査の様子
Ground Penetrating Radar

上：現グラウンド表面から
-2.0～-2.5mの探査結果を
平面的に図示したもの。
下：堀跡と考えられる断面
を捉えた探査結果。

電磁波によって地中の「電
氣的差異」を視覚化する。
土の違いや礫などの異物に
強く反応する。
(弱) 青<緑<黄<赤 (強)



令和2年度実施地中レーダー探査結果 1:1000
Results of Ground Penetrating Radar 2020



地中レーダー探査結果と絵図面等から推定される堀跡の位置の比較
Results of GPR and moat remains assumed from illustrated map from the Edo period

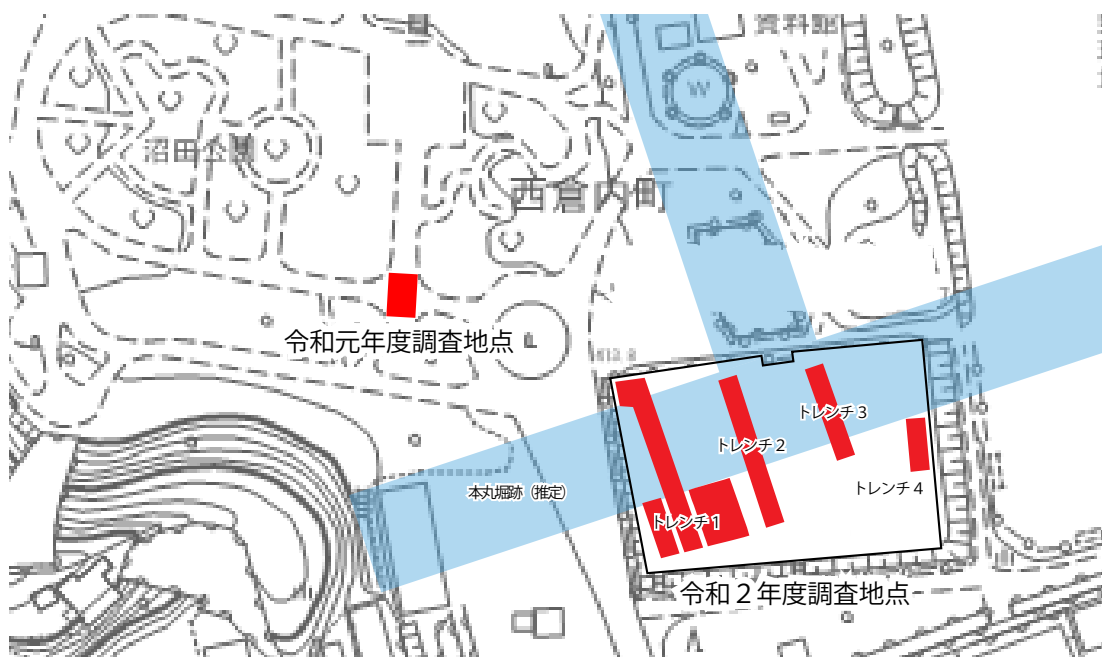
発掘調査

発掘調査は、沼田公園旧テニスコートで実施しました。この部分は、本丸堀がT字に分岐すると想定される地点で、幅や深さなど、本丸堀の規模と構造を確認することが課題となりました。まず幅4mのトレンチを4本設定して表土を除去したところ、本丸堀の南側の境が確認でき、想定よりも堀幅が南側に広いことが確認できました。またトレンチ1の北端で本丸側の境がcaろうじて確認できたことにより、テニスコート地表面における堀幅は28.1mとわかりました。ただし、テニスコートは沼田公園の地表面から約1.8m低くなっており、沼田城が機能していた当時の堀幅はもっと広がったものと考えられます。堀の深さは旧テニスコート地表面から約3.8mと確認できました。令和元年度の発掘調査で真田氏改易当時のものと考えられる地面が確認されており、そこから堀の底面までの深さは約5.6mになります。また、今回

旧テニスコートの中で確認できた堀の延長は60mです。

今回の調査における大きな成果の一つは、トレンチ1北端で多量の瓦が出土したことです。瓦は、堀の本丸側の法面に張り付くように遺存状態の良いものが折り重なって出土しました。天和元年（1681）に真田氏が改易になると、翌天和2年（1682）には沼田城の施設は取り壊されました。このような城の軍事機能や権威を象徴する施設を破壊する行為を破城^{はじょう}と呼びます。トレンチ1北端で出土した多量の瓦は、破城時に破壊された沼田城の施設に用いられていて、堀の中に投棄された沼田城の瓦と考えられます。旧テニスコートの北側の本丸南東隅には絵図面から三重の櫓^{やぐら}が建っていたとされることから、今回出土した瓦にはこの三重の櫓^{やぐら}に葺かれていたものが多数含まれると考えられます。

もう一つの発見は、本丸の南側で本丸堀



令和2年度年発掘調査実施位置図
Excavation point 2020/1:1000



青：本丸堀 赤：古い堀跡（馬出^{うまだし}の一部） 上空から
Excavation point 2020/blue:moat trace,red:previously unknown moat



本丸堀に投棄されたとみられる沼田城の瓦 南東から
Roof tiles dumped in 1682

より古い堀跡を確認したことです。この堀跡はL字に屈曲し、切り合い関係から本丸堀より古いことは確実です。部分的な調査のため出土遺物はわずかで詳細な時期は不明ですが、16世紀後半から17世紀初頭の短い期間で何度かの変遷がみられます。沼田城に真田氏が入城してから、正保城絵図に描かれた大規模な本丸堀が完成するまでには何度かの変遷があり、その一部を今回確認できたものと考えられます。現在のところこの堀跡は、城の出入口である虎口^{こぐち}の前面に設置される小規模な曲輪で、人馬の出入りを隠すとともに虎口を防御する馬出^{うまだし}の堀の可能性を考えています。